

## 中納言岩

若杉山中腹の若杉楽園の南400mくらいに、岩のすそ回り54m、岩の北側がひさしのように突き出た頂点の高さ9.5mの岩があります。その上に不動明王像が建立され、ひさしの下には古くから13仏が祭られています。この岩を地元の人には中納言岩と言います。

豊臣秀吉は文禄の役(1592年)と慶長の役(1597年)のとき、大量の軍船建造を臨海の諸藩に命じました。筑前国主の小早川秀秋(小早川隆景の養子)はこの命を受けて若杉山の御神木の「アヤスギ」を軍船の材料にしました。このとき中納言であつた秀

秋が、この岩の上に陣取つて指揮命令したので、中納言岩と言われるようになりました。

率な行動を理由に、1年間越前国までとばされてしまっています。しかし、翌年筑前へ復帰し、関ヶ原の戦いで、

秀秋は、慶長の役で、軽

西軍から東軍へ寝返り、東

軍を勝利に導いたのは有名な話です。



秀秋は関ヶ原の合戦からわずか2年後に早世いたします(享年21)。この死に關しては、大谷吉継が関ヶ原の合戦で自

害するにあたって、寝返つた秀秋を恨み「人面獸心なり。三年の間にたたりをなさん」と言つて切腹して、このたたりによつて狂乱して死んだという言い伝えもあります。そして小早川家は断絶してしまいます。

若杉山中では、根回りが3mから4mの切り株がよく見わかります。もしかすると、秀秋が当時切り出した杉の木かもしれません。